

先生や友だちの中で安定して生活する子

— かかわりを深め、こだわりをとき、ことばを育てる —

田口久恵

はじめに

自閉的傾向の強いH児は、「できない」「きたない」「こだわりが満たされない」「人が動きかけてきた」等のちょっとした抵抗が乗り切れず、一日に何回も大声で泣いたり、いらいらして集団行動が取りにくかった。このH児が、受容を基本にした指導により、少しずつ安定を得、いろいろな力をがんばらん発揮しだした経過について述べてみたい。

1. H児の実態と当面する課題 (61. 5.)

(1) 生育歴

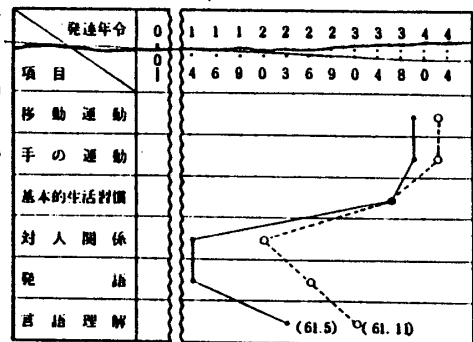
- S.55. 2.11生 6:2才 男子、第一子(妹)
- 分娩、体重、定頸、発歯、歩行開始とも標準的
- 反応乏しく発語なし、1:5才時耳鼻科受診、異常なし
- おとなしく、ほとんど泣かない。笑顔反応がない。
- 4:2才で通園施設に入園。よく泣き、人から逃げまわる。
- 児相で集団保育を受け、2年目は落付く。児相より自閉症と診断(61.2)。61.4 本校1年生に入学。

(2) 右に示す発達検査等による実態

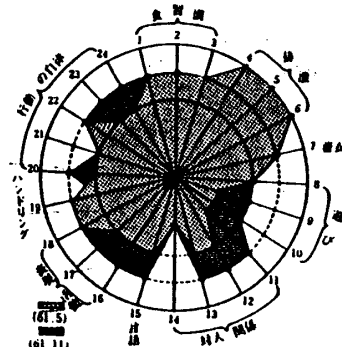
- 全般的に2:6才～3才の発達を予想する。
- 対人関係、発語が極度に劣っている。また行動の自律(自発性、集中性、模倣、計画性)に劣る。
- 中度の自閉症、中度の知恵遅れを予想するが、現実には潜在する力が充分発揮できていない。

(3) 日常の行動特徴、主な問題点

- 情緒不安定。一日何回も泣き叫んだりパニックを起こしたりする。原因がつかめない事も多い。自傷。
- 呼びかけに知らん顔、下を向く、目つむり等で拒否反応、七つこくするとパニックを起こす。援助を嫌う。
- 室外に出る度に電気を消す、同じ通路を必ず戻る、位置の変更、乱れが嫌い、決まったポーズ等こだわりが多く、満たされないとパニックを起こす。



〔遠成寺式乳幼児発達診断検査〕 (図1)



〔精研式 CIAC-II〕 (図2)

	(1)	(1.5)	(2)	(2.5)	(3)	(3.5)	(4)
1. 人との関係							
2. 模倣							
3. 感情							
4. 身体の使い方							
5. 物との関係							
6. 環境変化に対する適応							
7. 視覚による反応性							
8. 聴覚による反応性							
9. 近受容器による反応性							
10. 不安反応							
11. 言語性的コミュニケーション							
12. 非言語性的コミュニケーション							
13. 活動水準							
14. 知的水準							
15. 全体的印象							

〔CARSスコアリングシート〕 (図3)

上記の様な実態から、H児の力を引き出すために、まず本年度は情緒を安定させて援助や指示がうまく受け止められる状態を作ること、人を嫌ったり恐れたりせず一緒に楽しく生活できる状態を作る

ことが大切であると考え、テーマのような課題を設定した。

2. 指導の方針と方法

課題を改善していくために、次の様な方針を立て、方法を模索しながら指導を展開した。

(1) 指導の方針

- ① H児に近い気持ちで痛みや辛さを感じとり、積極的に援助していく一受容的態度でかかわる。
- ② こだわりは禁止、制止せず、個性・発達の必要性として認めながら徐々にといていく。
- ③ 不安や緊張場面を極力少なくし、楽しい経験や意欲的活動を通して力を育てていく。
- ④ 方法論は一つの立場をとらない。時と場合に応じてプラスと思われる方法を取り入れる。

(2) 指導の方法

- ① しっかりかかわりを持つ。いつも身近にいて、不安定にならないように環境を整えたり、困ったら援助したり、いつでも飛び込んでくれるように心の準備をしながら見守っていく。
- ② 生活の流れ、学習方法の定形化・繰り返しで、見通しを持って、安心して生活できる様にする。
- ③ 教師との一対一のかかわりと同時に、集団での楽しい活動、かかわりを大切にする。
- ④ 同じ活動や類似単元を繰り返す中に、スモールステップで少しずつ学習課題を入れていく。

3. 指導経過

〔第I期 4月～〕— 安心した生活で情緒を安定させ、ラポートを育てる —

- (1) かかわりを深め、こだわりを満足させながら安定をめざす。

機嫌をとったり、こだわりを制止して安定をめざしたのではない。H児が不安定になる要因を一つでも少くした環境作り、こだわりが満たせる対応の工夫等で援助していった。これには、わずかのサインを見逃さない教師の受け止め(共感が基になる)と、対応のアイデアが大きな鍵になった。



〔かんしゃくを起こすH児〕 61.5

〈4月22日〉 給食時。カレーがバットの右上にあたって汁がポトリとバットに落ちた。「オチタ」と言って泣く。落ちないようにと、カレーを手前に引きよせたため大パニック。同一性が保持されなかったためである。以後、こぼれそうな物は一番手前に置く事、椅子を後に引きすぎてこぼれるのを防ぐため、机を壁側にできるだけ近づける配慮をした。9月には配膳のこだわりは忘れたようになり、配置を変えても平気、汚れは布巾でふくようになった。

上記の様な例は数え切れない。パニックの原因、対応の工夫例をまとめると次の様である。

原因	具体的な内容例	対応の具体的方法例
○注意、介入 ○こだわり	○ズボンの前後が逆。色のぬり方 ○電気を消す。電源を抜く。通路	○取り組み態度を重視、途中口出しせず少し後で直させる。 ○制止せず満足させ、その後始末を担当がする。係活動にいかす。
○同一性保持 ○清潔、潔癖 ○干涉、援助	○位置や順番が変わった。 ○ぬれた、こぼれた。手についた。 ○洗面器を手渡された。片づけた。	○最初の配置に細心の注意をする。極力変更しない。 ○こぼれ、汚れを予知しカバーする。着替え等でさっと対処。 ○自主性を尊重し、時間がかかっても待つ。干涉せず遠くで見守る。
○正確、几帳面 ○できない	○カードが曲った。磁器玉が落ちた。 ○ボタン止め、水道の栓が固い。	○きちんと貼る、本人に直させる。ずれない教具を作る。 ○事前にねじを緩める等気付かれない援助。担任の手と合わせてする。

一見甘やかashiにも思え、しつけに対する迷いもあったが、このかかわり方で担任への信頼心が育ってくるのをじっと待った。5月の中頃から「これでいいか。これしてもいいか」という確めの視線

を投げかけて、こちらの気持ちをくもうとしはじめ、信頼関係の育ちが感じられた。

(2) 散歩を日課にとり入れる。

日児が毎朝くり返す換気扇巡り、コンクリート柵渡りを組み入れた散歩を4月30日より日課にとり入れ、引卒しながら関係を深めようとした。散歩にはその他、次のようなメリットがあった。

- ① 活動的、解放的でいきいきしていて、心が開かれやすい。
- ② コースが決まっているため見通しを持った自主的行動がとれる。くり返しの充実感がある。
- ③ 途中「ちょっと待って」「～に寄って」等、 具体的・直接的な指示の学習ができる。
- ④ 手をつなぐ、日児が先生を引っばる等できる。追いかけてたりかくれたりして遊べる。
- ⑤ 途中、いろいろな人と出会い、接し、声かけに応じたりあいさつをしたりできる。
- ⑥ 見た物、触った物、要求を言語化させたり、語りかけをする等、生きた言語指導ができる。
- ⑦ 広い所を走る、歌を歌う、落書きをする等、自由にダイナミックな活動が組み込まれる。

(3) I 期に対する考察

〔散歩の具体例〕



- ① P14 に示すように、パニックは減少し、担任へのかかわりが増えてきた。

- 目を合わせると、はじめてにっこり笑い返した。「いないいない…」にも笑う。(5/6)
- そっと手をひっぱり笑いかけてくる。(5/12)
- 先生を引っばって顔をよせブーブーと言う
- だるまさんを歌うととても喜ぶ (5/21)
- 馬と一緒に乗ってと要求 (6/24)
- 担任の顔色を見ながら教生の先生の授業をじゃましている。(6/12)

- ② 緊張した表情、こだわりが軽減し、必要以上の几帳面さが減少してきた。

- ③ ちらちらと顔色を見たり、「だめ、やめなさい」等の禁止、「まだ、もう少し」等の指示に応じられだし、少しずつ耐性が育ちはじめている。

- ④ 受容を基本に置きながら、「押してみる」→「だめなら引く」→「また押してみる」の指導法を少しずつとり入れる時期に来ていると考える。

〈5月10日の散歩の様子・以後の発展〉		
コース	内容・活動・反応	発 展
教室	<ul style="list-style-type: none"> ・「行くよ！」にあわてて着替える。 ・電気を消す。あと担任が点灯し出発。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えて教官室の前で待っている。(6/3)
教官室	<ul style="list-style-type: none"> ・後方からの声かけに反応なし。前からの声かけに「おはよう」と反応。 ・お菓子をもらい、まねでお礼を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教官室、事務室で必ず好きな先生とあいさつ。電話遊び。 ・本を借りて帰る。
図書室		<ul style="list-style-type: none"> ・名前、顔や車の絵等どんどん広範囲にたくさん書く。 ・白兔がなくなると高1クラスまで行く。
テラス		<ul style="list-style-type: none"> ・花だんだけでなく、コンクリート柵を決まったコースで歩く。 ・柵に「のせて」、降りるから「だっこして」等の言葉を学習 ・花と草の区別学習
非常階段	<ul style="list-style-type: none"> ・じどうしゃ、しろい、あかいと言って文字を書くときまねて読む。なぞる。 ・じつと車を見ている。両足とび。 	
中庭 兎小屋	<ul style="list-style-type: none"> ・小鳥、兎に草を入れ「タベ、タベ」と言う。食べないので怒る。 ・花だんのまわりのれんがを歩く。 ・かえるを見つけ、飛びながら追いかける。 ・かえるの歌と一緒に少し口ずさむ。 	
入口 教室	<ul style="list-style-type: none"> ・トントン戸をたたき ・「アケテ」とまねる。 ・「タダイマ」とまねて言う。点灯。 	

〔第Ⅱ期 6月～〕

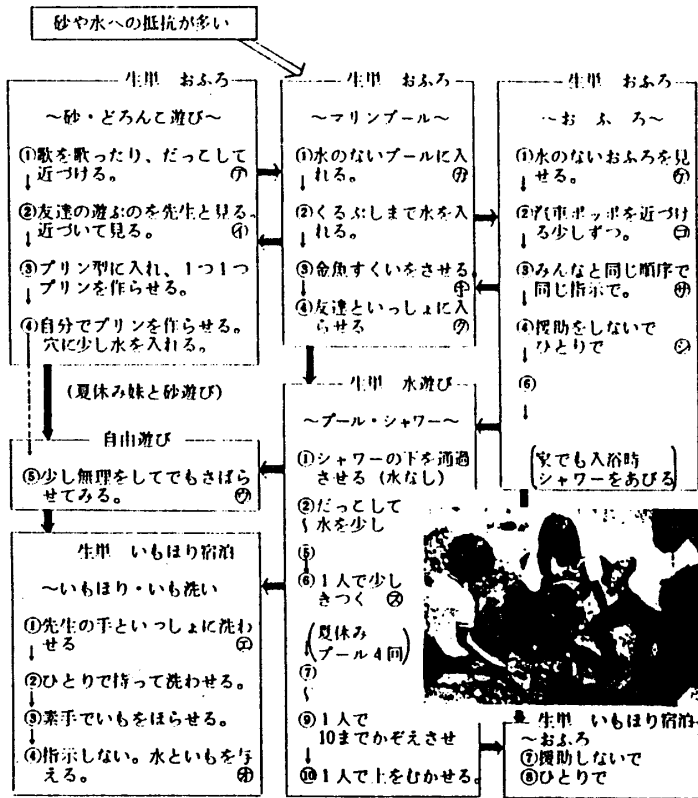
—無理をせず、少しずつ押してみる—

みんなの中で、みんなと同じ課題に楽しく取り組めだす事は、自信につながり、安定の大きな力になる。生活単元学習は学習が目的、意欲的に展開されるため少々抵抗のある事ででもくり返し取り組

めたり、みんながおもしろそうに取り組む集団の力によって、少しずつできだしたりする事が多くある。次にH児が生活単元学習でスモールステップを積み上げる事によって大嫌いだった水や泥に少しずつ慣れ、安定して入浴したり遊んだりした経過の概略を述べてみたい。

(1) 水、泥にかかわる学習のくり返し、積み上げ。

変容の様子 (左図記号と対応)。



〔砂遊び、どろんこ、いも洗い〕

- ① 足の甲を丸くして、砂に素足で立とうとしない。友達の水がかかって泣く。
- ② 少しずつ近づく。素足で砂に立たた。
- ③ 穴に水を入れ入らせた。はじめびっくりしたが、だんだん足ふみして楽しむ。
- ④ いものしっぽを持って洗う。先生に手をつっこまれてびっくりしたが泣かない。
- ⑤ まず、うでまくりをしてとりかかった。水の中でいもをしっかりとぎっている。

〔水遊び、入浴、プール〕

- ⑥ プールに水が入ってきたら飛び出す。
- ⑦ 少し金魚をすくう。水のかかるのを嫌う。
- ⑧ 5分間ちゅうちょ。自分で思い切り入る。
- ⑨ パニックを起こし、脱衣室にも入らない。
- ⑩ 脱衣室に入る。浴室に10分遅れて入る。
- ⑪ 肩まで沈めた。水がかかると逃げる。
- ⑫ 先生の制止もきかず、真先に浴室に入る。顔に水がかかったが泣かない。
- ⑬ 意外に抵抗なく一人でがんばれた。

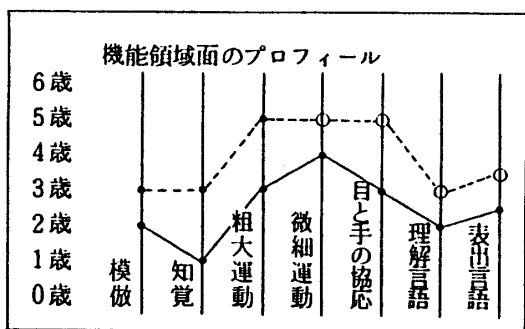
(2) 新しい経験、抵抗のある活動に取り組ませる時に配慮した事。

- ① あせらず、スモールステップでくり返し、神経を逆なでしない。困ればすぐ包み込む。
- ② H児の気持をくみ取りながらも、こちらの意図・気持も思いを込めて語りかけ、はげます。
- ③ 「風呂あがりにジュース」とか「いもを洗ったら焼いも」等、楽しい生活を次に設定する。
- ④ 友達や先生がとても楽しそうに見せ、誘いかけ、だんだん気持が高まってくるのをじっと待つ。強制や時期を得ない指示は逆効果と考える。ジレンマの時間を充分与える。
- ⑤ わずかのサインを見逃さず、気持が高まって援助の必要な機を逃さず捕え、援助していく。

(3) II期に対する考察

- ① 心的、物的環境を整えてもらって安定していたI期に比べ、援助を受けながらも、少しずつ自分の力で努力をし、安定を得た期である。この事はP14の耐性場面のグラフ変化でも分かる。
- ② 「困ったら必ず助けてもらえる」「先生の指示を聞くと良い事がある」等がH児に分かりはじめ、「なんとかやってみよう」とふんばる場面がたくさん見られだした。
- ③ 担任とH児の信頼関係が深まるにつれ、パニックを起こしかけても、「そんな事ぐらいで泣く人は…」「もうやめなさい」「だって～でしょう」等、目を見て言い聞かせたり、少し変わった表情・声で接すれば、心を静めて気分転換できる事が多くなってきた。

〔第三期 9月～〕 — 学習の組み立てを図る。自発語を促す —



左の図は、8月に実施したPEP診断検査のプロフィールである。点線の芽生え反応（できかかっている）の得点がかかなり高く、組み立てた学習の導入を示唆された。

そこで、知覚、目と手の共応、言語等を総合的に組み立て、生活単元学習と関連させた「貼り絵」を個別学習に導入した。同時に、言語の指導を生活全般を通して、場に即しながら試みた。以下、言語への取り組みを述べてみたい。

(1) 生活の中で発語を促す。

H児のパニックは減少したが、担任が機転をきかさないと泣き声が多く出る。「水が出ない」「ふたがとれない」等、言葉で訴え、要求すればすむ理由である。9月に模倣・自発言語が急速に活発化した事と合わせ、「卒直な自己表現と内言語による自律を柱に安定を目ざす時期」と考え、生活のいろいろな場面に即しながら、試行錯誤をくり返しながら言語指導を次の様に試みた。

ことばの例	状況、指導の概要	備考
○タマサガシ、ダンス ○ダッコシテアゲル	○会話の中介に文字、文字カードを使い読ませる。選択もさせる。(6月～) ○先生にだっこを要求して言う。「～して」の言い方を模倣で指導。(9/26)	○独りでも言う ○初めての要求語
○ミカン ○ブドーチョーダイ	○みかんを示し「これなあに」に答えず、「これりんご？」に答えた。(9/26) ○掌の干ブドーを見せ握る。他児に「ブドーチョーダイ」と言わせ与える。 H児はじっとそれを見ていたが、同様にすると、ちゃんと答えた。(10/17)	○初めての応答 ○ラムネ。クッキー等へ広げていった。
○カワカミセンセイ	○言いたい言葉の最初の音④を言うと、すらっとこの言葉が言えた。	○他の言葉にも通用
○オナカスクワイ	○給食時ぐずって廊下に連れ出される。安定して給食室に戻りながら。(9/30)	○すごい独り言。

一方、どんな言葉を発したか、できる限りメモしてみた。9、10月分を例示すると次表の様になる。

	意味不明な言語	関連・連想で	模倣・エコラリア	パニック時	場に応じた自発語	誘導した自発語	文字を読んで
9月	・モモイロー ・へへへへー ・イトハイヨー	・ペコチャン ・ゴハンタベタ ・オトーサン	・カバンニイレ ・フクキナサイ ・ハジメマス	・カユイヨ ・オシタヨ ・アキレタ	・ダッコシタゲル ・ムイテ ・アケテダサイ	・チーズホシイ ・テヲカシテ ・ポタンシテ	・ダルマハコビ ・セイリセイトン ・アカ・キイロ
	計	⑪	⑫	⑪	⑭	⑳	㉑
10月	・ヒエヒエー ・マクワノヘー ・アラノヒー	・グリーンガム ・ガンパシヨ ・カクレンボ	・カタズケテ ・オコラナイ ・アセフイテ	・ドコイクダ ・ワカラナ ・ナニシヨール	・ノドカワイタ ・フーフーシテ ・デンワトレタ	・オカワリシテ ・ホンチョーダイ ・アガリタイ	・オヒサマ ・タノシイオフロ ・イモホリ
	計	⑧	⑫	⑬	⑭	⑳	㉑

10月に入ると、家庭からも「こんな言葉が」という報告がたくさん入り、中でも「～チョーダイ」「～シテ」の要求語、「これなあに」に対する的確な応答が、喜びと合わせよく報告された。

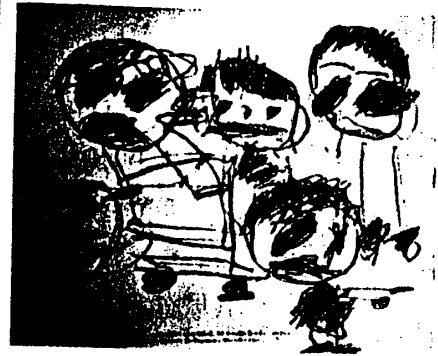
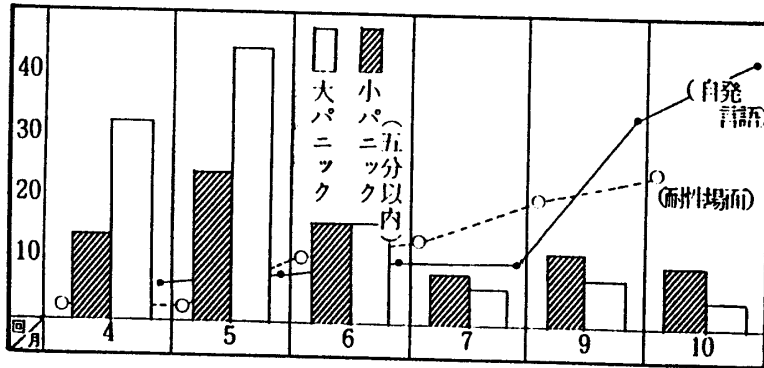
(2) III期（特に発語）に対する考察

記録できた物から推測しても、H児の言葉は急速に増加している。「椅子が所定の所になかったら『イストッテ』と訴える(11/12)」等、言語で表現することで安定が得られたと思われる事例も少しずつ観察されだした。と同時に、言いかけによる我慢ができた事がこの期の大きな特徴である。またこの期は、視線や引っ張りによるコミュニケーションだけでなく、全身を使った甘えが

出、担任へのいたずら、からかいへと変容し、固い殻を少しずつ破っていった期である。

4. 一年間の取り組みの考察及び今後の課題

H児が先生や友達の中で安定した生活をするための取り組みを特徴的な三期に分けて述べてきた。それによって、H児が果して安定して生活する子になり得たかどうか、次に示す図表を参考に総括してみたい。次の図は、H児の不安定状況、耐性状況、自発言語を回数で扱った物である。



〔H児のかいた絵・10月〕

(1) 一年間の取り組みの考察

- ① パニック、中でも五分以上の大パニックはI期以降かなり減少し、安定を示している。
- ② パニックの減少につれて、耐性場面が増加している。特に9～10月が著しい。例示すれば、

- ・リズム打ち。J J Jと打っているのを手を持ってJ J Jのリズムに変更。よく耐えて指導を受けパニックなし (10/17)
- ・すべり台。登りかけたらY君がすべってきたのであわてて降りてゆずる。怒らず、声を立てて笑っていた。(10/25)
- ・給食時。席についてから机を少し移動させたり、配膳を変えたが全然気にしない。また元のように並べる。(10/28)
- ・洗面時。目のまわりだけ洗うので、思い切って手を持って一緒に顔中こすったが泣かなかった。(11/10)

- ③ 場に応じた自発言語が出はじめている。これは安定と相互作用して、更に安定が期待できる。
 - ④ 絵や文字表現、身体模倣等、安定するにつれ、潜在諸能力が発揮されだした。
 - ⑤ 人を余り嫌わなくなり、働きかけに泣いたりせず、一緒にじゃれ合う場面も見られだした。
- 上述した事はP 9に示すC I A C - II 検査、遠城寺発達検査でも変容としてとらえる事ができる。以上、まだまだ保護状態での安定ではあるが、目標に近づいていけたのではないかと考える。

(2) 反省と今後の課題

あせらず、あせらずと言いきかせ取り組んだ8ヶ月であったが、随所であせりや無理を感じて反省する事が多かった。逆に、過保護、甘やかに終わるのではないかと悩み、あせる事もあった。退行現象も見られたが、明るい表情、甘え、H児からの働きかけを見るにつれ、受容による安定した心や耐性・自立心の醸成は、12年間の一貫教育の初年度として大切な取り組みであったと考える。受容、共感の心を更に引き継ぎながら、次年度は更に人間関係や言葉を育てると同時に自立を促し、学習を進める、らせん段階の第二段へと進んでいきたい。

おわりに

この研究は、H児をしっかり受け止め安定させようと模索した生活を三つの期にまとめたものであり、副題に示した過程は平井信義先生の「自閉児指導シリーズ」1～3巻の題名通りになった。この事について先生からは、心良く了承と励ましを頂戴した。平井先生に心より感謝したい。